推進普及マネジメント

到達目標：
・校内でのICT活用の推進普及に関わって、同僚の先生同士が互いの気持ちや大切にしていることを理解し合う方法を知り、校内で説明または演習等を実施できるようになる。

・先生がそれぞれ授業で大切にしていることや、校内の状況も考え、その流れから、必要なことの一つとしての ICT活用へ先生方の意識を向けていく仕掛けを知る。

・最後に、学校の組織的な取組へ向かうためのヒントを得る。

ポイント

■なぜICTそしてタブレットPCか，職員にわかってもらえる説明をする

■推進普及のキーポイント（組織体制の工夫・合意を得るプロセス・成果の共有の仕方）を知っている

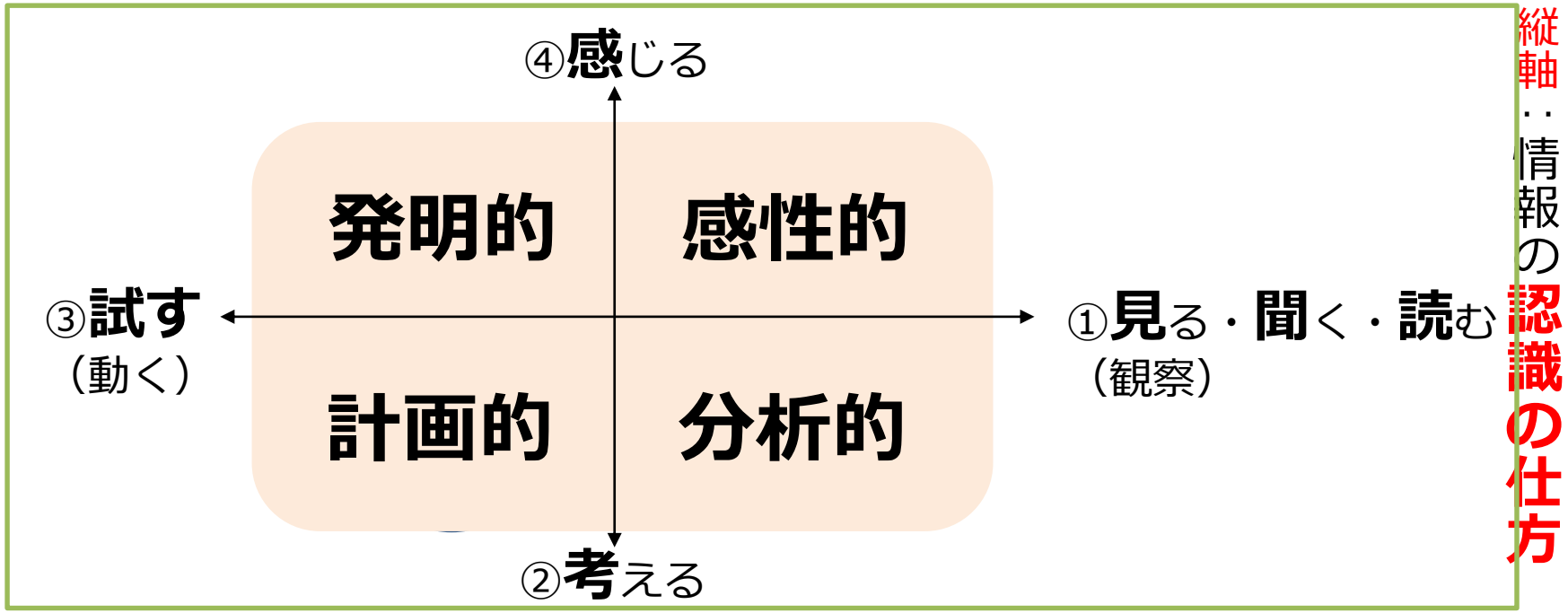
■校内での組織的取組につないでいく見通しをもてている

■職員の意識が変わっていく現象を読み解く視点や見通しを持てている

なぜICTそしてタブレットPCか

（１）教師と児童生徒は，同じようなスタイルで学んだり情報を取り扱っているとは限らない。それぞれ自分に合った情報の知覚スタイルや認識スタイルがある。

■ちなみに、みなさんはどのスタイルでしょうか？



横軸：情報の**加工の方法**

＊参考；コルブの学習スタイルモデルの変形

なぜICTそしてタブレットPCか

【多重知能論への着目】　　ハワードガードナー

マルチ能力とは

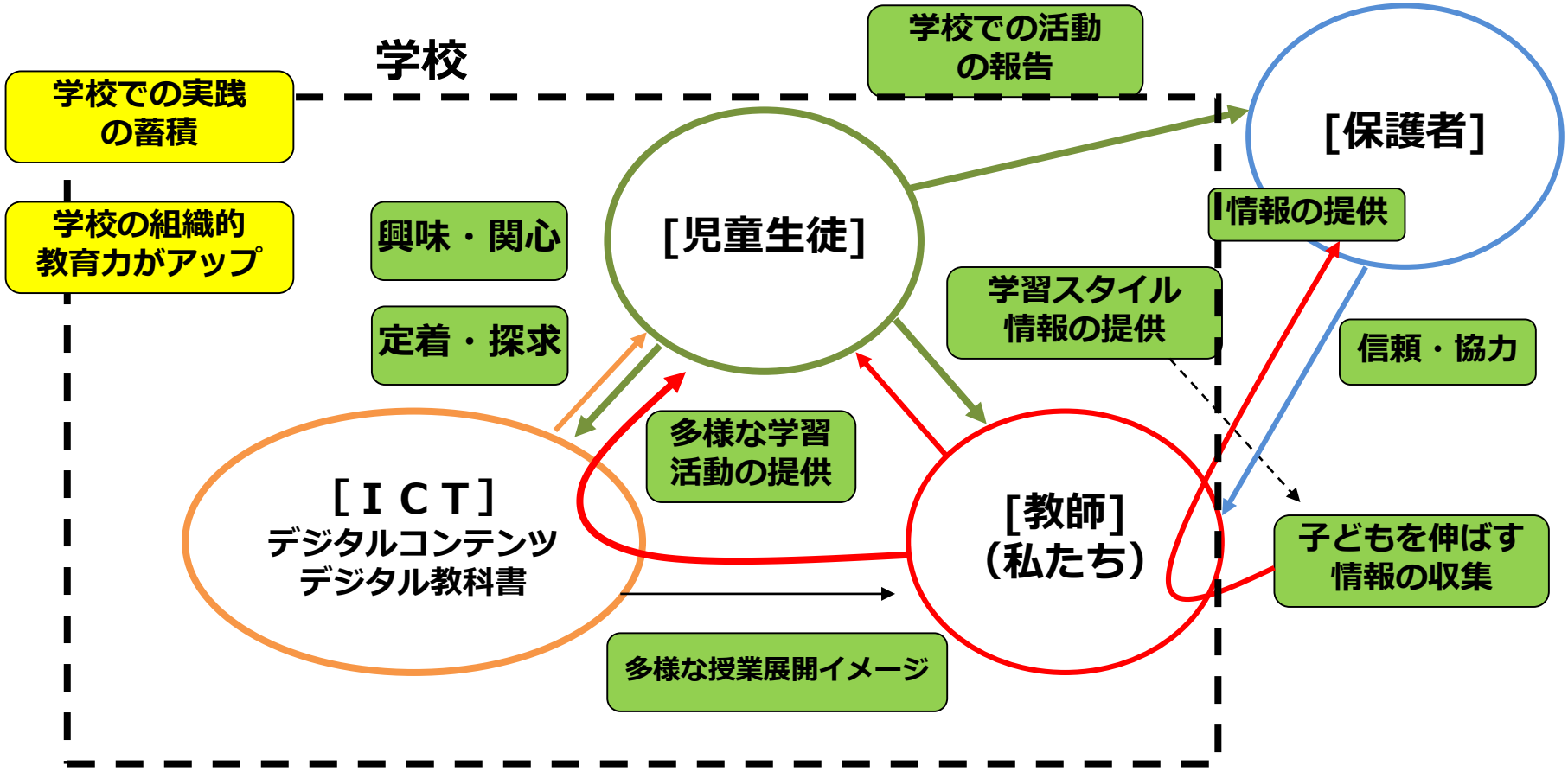
- ■言語能力
- ■論理的ー数学的能力
- ■空間能力
- ■身体ー運動能力
- ■音感能力
- ■人間関係能力
- ■自己観察・管理能力
- ■自然との共生能力

多様な能力に関わって、個人の学びの特性を生かしていくためには、それを生かす学習環境が必要となる。

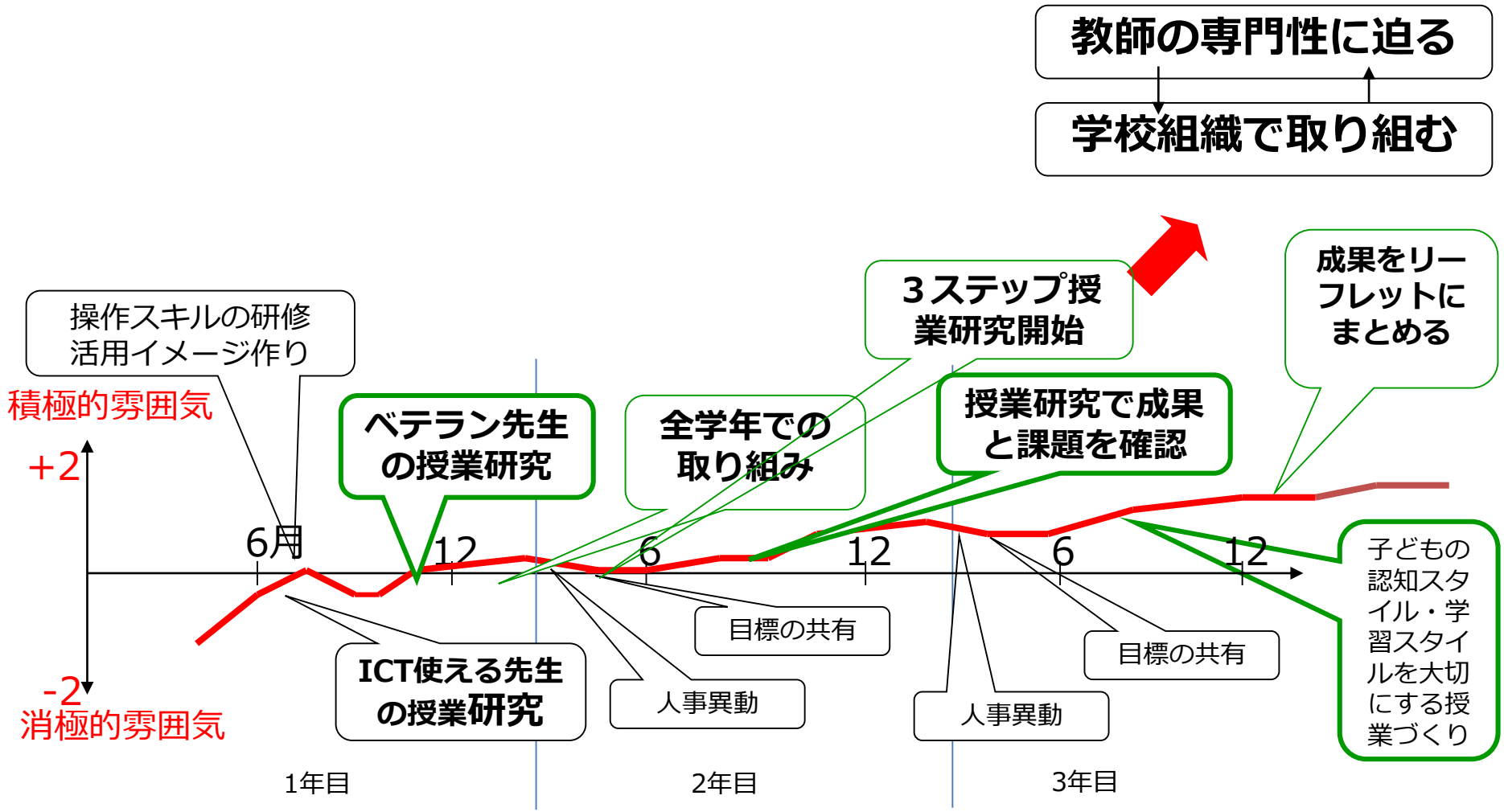
→情報・視聴覚機器が持つ可能性
　　指導の道具として
　　学習の道具として
　　評価の道具として

なぜICTそしてタブレットPCか【図】

[ICT]は、[教師」にとっては**今までしたかったが、環境の問題等で子どもたちにさせることができにくかったことを**、[児童生徒]にとっては、**自分に合う学び方で学べる機会**を広げてくれる。



ICT活用に関しての組織的な取り組み
＜小学校A校の研修の変化から考える＞



A校から学ぶ組織的な取組へのキーポイント

■ リードするには４つの役割

・会議で合意を得る役割
・提案授業などをする役割
・環境を整えたりサポートをする役割
・職員からの信頼を得る役割
・3人以上でチームが組めると心強い

■ 実感と手ごたえを感じる授業研究のしかけ

・個人での取組（チャレンジしてみる，試行錯誤）
・学年での取組（個人の取組を学年で共有）
・学校での取組（授業研究を通じて学校全体の財産に）

■ 取組の成果と課題を視覚化する工夫

・授業の重要シーンを写真で撮影し，Ａ４裏表で1枚シートにまとめる。
・そこに話し合ったキーワードを絵と吹き出しだけ残す。

■ 授業研究では，教師の指導行為への着目だけでなく，子どもたちの学びの姿へ着目する

・子どもはそこで何をどのように学んでいるのかへ目を向ける
・個々の子どもの認知スタイル・学習スタイルを大切にする授業づくり

学校での普及に向けた取組ステップ

【STEP1】先生方にご自分の日頃の実践とICT活用の関係を見つめる **雰囲気を作る**

【STEP2】若手の授業力支援と関連付けた，ICT活用の学習検討会を組織する **文化を作る**

－校内にある目的を共有した同僚性の構築

－若手育成とからめてベテランを取組に巻き込む

【STEP3】学校全体として取り組む課題と関わって，ICTの活用可能性を位置づける **専門的な学習共同体の構築**へ

【導入時】日頃の自分の授業からICT活用を見つめる
＜ICTについて考える雰囲気の形成＞

STEP1

検討手法例：学習の姿カード

1．日頃よく授業で用いている学習カード 右上に★を記入

2．①　ICTがあると効果的と思われる学習カード左上に◎を記入

　　②　むしろICTを用いない方がいい学習カードの左上に×を記入

①地域の人やある専門に詳しい人の協力を得て考え学ぶ学習	②誤りから学ぶ学習（誤りが起こりやすい問題の活用）	③学んだことを日常生活に応用することを考えたり，活用したりする学習	④間違いが起こりにくい積み重ね（スモールステップの）学習	⑤情報を分析的・批判的に読み解き思考を磨く学習
⑥自分で問題を作って考える学習	⑦何度も暗唱したり，書いたりして覚える学習	⑧自分に合った学び方を選んだり，考えたりする学習	⑨図や絵を描きながらその問いの意味を考える学習	⑩友達と協力して課題を解決する学習
⑪様々なアイディアを出し合い，話し合った結論を自分たちの言葉でまとめる学習	⑫問題の内容を，自分の生活経験からイメージさせ，語らせ，考えさせる学習			

正解があるわけではなく、ご自身が日常行っている学習活動でICTが効果的に使えるなら使ってみることを進めてみる演習

【1年～2年目】授業力アップと関わってICT活用を見つめていく
＜チームとしてICTについて研究する文化づくり＞

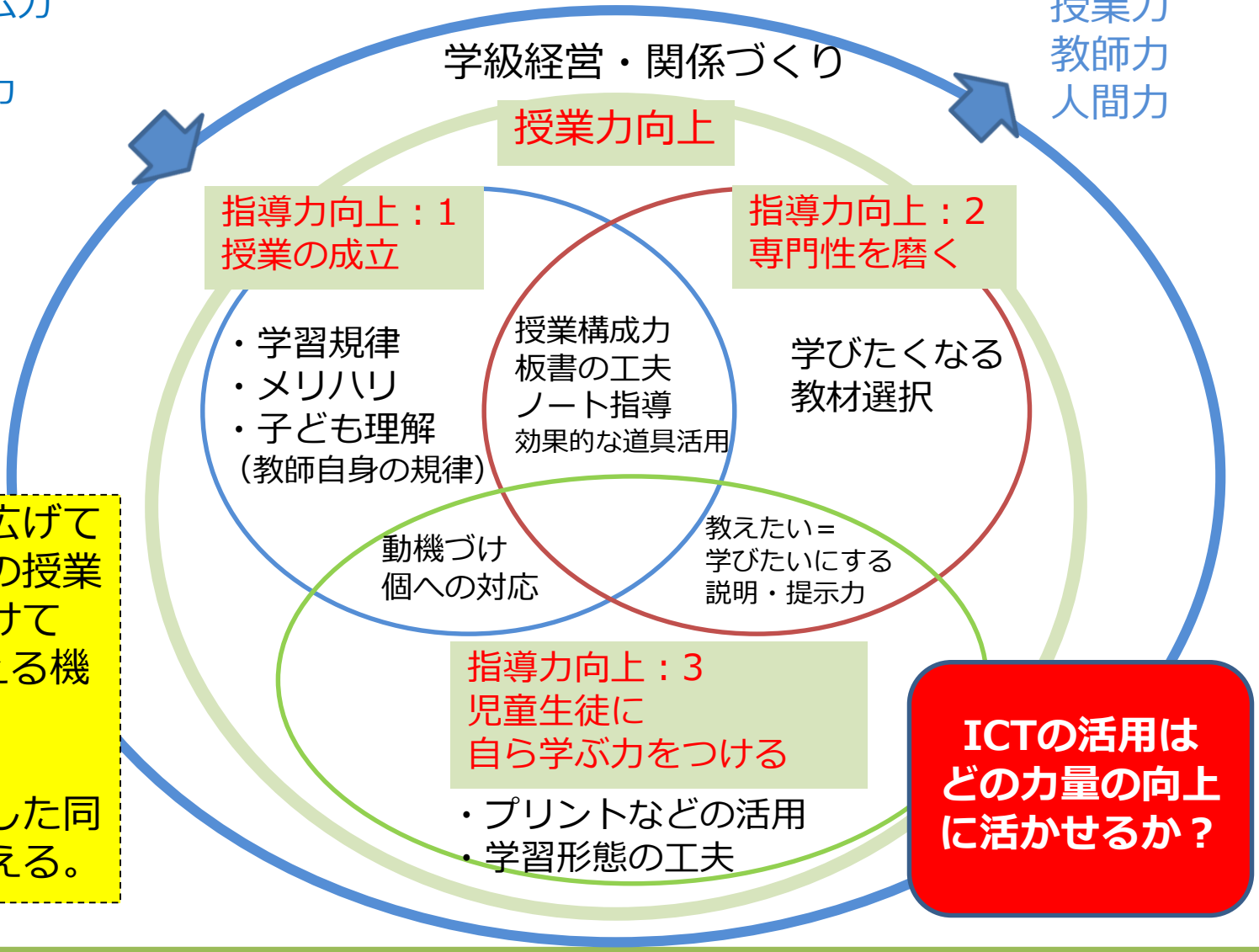
STEP2

○学年・教科のチーム力

○学校の組織的教育力

○管理職の展望提示/
はたらきかけ/
支援組織作り

授業力
教師力
人間力



☆校内で取組を広げていくには，若手の授業力支援と関連付けてICTの活用を考える機会を作る。

☆若手を中心とした同僚性の構築を考える。

ICTの活用はどの力量の向上に活かせるか？

【3年目～】子どもたちの課題への取り組みからICT活用を見つめる
＜学校全体の取組へ＞

STEP3

学力学習状況調査の結果分析
→　課題に挑む際
→　ICT活用可能性を検討

生活習慣
ストレス
課題群
規範意識　等

○情報が使えない（意味理解）
→手続き知識の活用

○学校調査での課題
→発展的な内容・実生活との関連付け　等

現状のよい点を活

- 家で計画的勉強
- 地域行事へ参加
- 読書の機会確保
- 話し合う時間有
- 校内研修有
- 幼小中連携

□活用する力に課題
＊関係思考
＊要約力

（課題）家庭での予習
復習時間の確保

学習/生活の仕方の指導

家庭学習支援で

授業

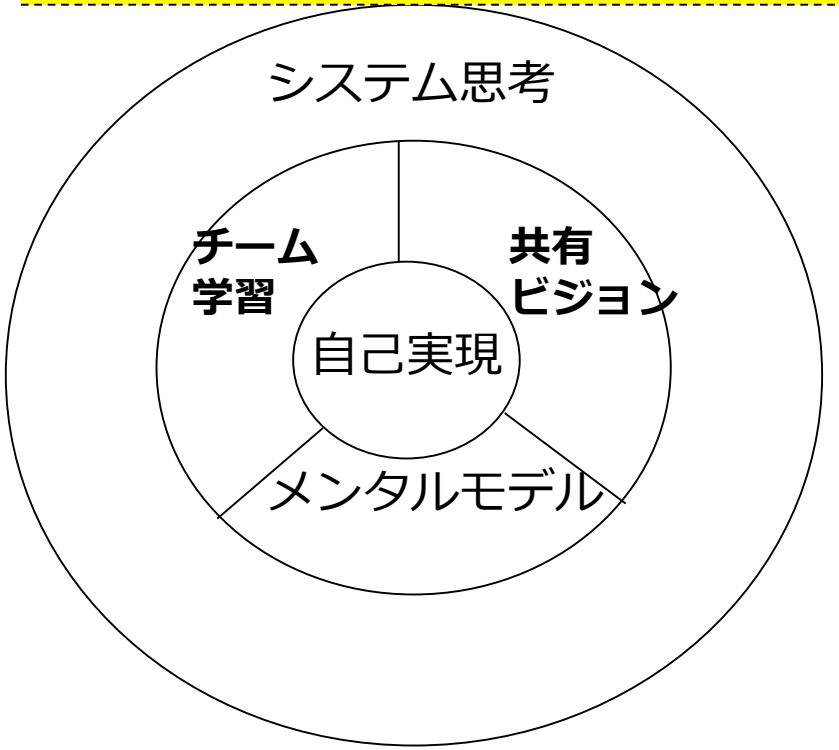
情報活用能力の育成やICT活用で取り組めないか

学校組織による指導の焦点化

学習する組織の5つのディシプリン

- **自己実現：自分が何を大事にし、どうありたいかという個人ビジョンの明確化、及び現状を明確にとらえ、そのギャップに挑む**
- **共有ビジョン：組織のあらゆる人々が共通して持つ「私たちは何を創造したいのか」「自分たちはどうありたいのか」ということに関するビジョン**
- **メンタルモデル：私たちの心の中にある固定化された暗黙のイメージやストーリー（仮説）**
- **チーム学習：チームのメンバーが求める共通の成果を生み出していくために協働でチームの能力を伸ばしていくプロセス**
- **システム思考：全体的な変化を見る見方・枠組み**

下の図に印をつけてみましょう
・自校で現在大切にしているところ（できているところ）に◎
・不足しているところに△



ピーター・センゲ他著
『学習する組織「5つの能力」』
日本経済新聞社、2003年

校内でのICT活用取組の状態の変化

[要約]　最初の頃　→　ブラッシュアップ後

可能性と不安 一過性取組 **一時的手ごたえ**	できごと	**不安の軽減** 子供に活用定着 手引作成、計画研修
ICT**活用自体が目的** **続かない** **多忙さを感じる雰囲気**	パターン	**目的達成のため** **授業方法改善** **子供理解の共有，** **教員の専門的協働**
使う・使わないの**取組分離** 研究主任中心 研修時間・場が作れない	構造	**取組の計画・組織化** **学年間や教科部会の機能で** 研修**時間・場の確保** **互恵的な関係**
自分で努力 今までのやり方・**今で精一杯** **成功しないという思い**	メンタル・モデル	各教員の教育観相互理解 やってみると、手ごたえ 子供理解/学力把握深まる感覚 **互いの取組に感謝と尊重**

（参考）校内研修実施時のワンポイント

- 校内研修は成人の学びの場であることもおさえていく
  - Andragogy（ドイツの教育者アレクサンダー・カップが1833が使用。後にアメリカの成人教育の理論家マルコム・ノウルズが成人教育の主要概念として使用→1975）
- 成人は自分たちが学ぶことについて**その計画と評価に直接関わる必要**がある[自己概念と学習への動機付け]
- **経験が学習活動の基盤**を提供してくれる[経験]
- 成人は、**自分たちの職業や暮らしに直接重要と思われるようなテーマについて学ぶことに最も興味**を示す[学習へのレディネス]
- **成人の学習は、**学習内容中心型ではなく、**問題中心型である**[学習への方向付け]
  - ノールズ，マルカム【著】 堀 薫夫/三輪 建二【監訳】『成人教育の現代的実践 - ペダゴジーからアンドラゴジーへ 』鳳書房（2002/02）

推進普及マネジメントのポイント[再掲]

- ■なぜICTそしてタブレットPCか，職員にわかってもらえる説明をする
- ■推進普及のキーポイント（組織体制の工夫・合意を得るプロセス・成果の共有の仕方）を知っている
- ■校内での組織的取組につないでいく見通しをもてている
- ■職員の意識が変わっていく現象を読み解く視点や見通しを持てている